会議概要

(1) 事務局より報告

・事務局より「第３次柏市生涯学習推進計画進捗状況」，「第４次柏市生涯学習推進計画案」を用いて説明。

池沢会長：事務局側からの説明について，確認事項はありますか。根本委員，お願いします。

根本委員：第３次進捗状況の７ページにある「市民大学」という事業は，まだ存続しているのでしょうか。

事　務　局:「市民大学」については，担当課である協働推進課が第３次計画を見直し，「カシワワカモノプロジェクト」というプロジェクトに変わっています。今現在「市民大学」そのものを継続して行っているかどうかは，協働推進課に確認した後にお答えします。

池沢会長：では，清水副会長お願いします。

清水副会長：第３次進捗状況において，例えば４ページで担当課の評価Ｂ，評価の説明，目標人数に達しなかったとか，５ページは評価Ａ，目標値に対し達成された，という結果がありますが，第４次計画でこういう事業をやるに当たり，プロセスがどうだったかというか，Ｂだったのはどうして Ｂだったのか，Ａだったのは何がうまくいってＡだったのかというのは，引き継ぎをされているという理解でよろしいですか。

事　務　局:第３次計画の４年目として細かい聞き取りをしたわけではないのですが，昨年度の協議会でも報告したとおり，第４次計画を作るに当たり，重点施策ごとの総括を行いました。総括は，その際に実施した担当課への聞き取りを受けているため，４年目もそこから大きく流れが変わっていることはないです。

清水副会長：わかりました。ＢとかＡという評価というよりも，そのプロセスを，いい所はいいで引き継いだ方がいいと思うし，うまくいかなかったことはこっちの方がいいんじゃ

ないかみたいなことが引き継がれた方が，第４次計画がもっとスムーズに行くのではないかと思います。

・事務局より「第２次柏市教育振興計画について」を用いて説明。

池沢会長：柏市教育振興計画は，これまで主に学校教育分野を中心としたものでしたが，生涯学習推進計画と密接な関係にあるため，この機会に計画策定の進捗状況を説明していただきました。今の説明について，質問等はありますか。
　根本委員，お願いします。

根本委員：柏地域でコミュニティ・スクールがスタートしているのは２０校前後です。地域と学校が協働連携していくという目的としては，やはりコミュニティ・スクールの幅を広げた方が良いと思うのですが，これを全地域，あるいは全校に対して展開するというような計画はあるのでしょうか。コミュニティ・スクールを始めることによって，児童・生徒に地域へ愛着を持ってもらうということと，教職員の負担をできるだけ少なくすると同時に，地域の人間関係が構築されるという意味があると思います。いつ頃コミュニティ・スクールが全校にわたって，あるいは全地域にわたって普及するのか，計画されているのかということをお聞きすると同時に，コミュニティ・スクールのビジョンをお聞かせいただきたいです。

池沢会長：牧野委員，コミュニティ・スクールに関する国の方針などを説明していただいてよろしいでしょうか。

牧野委員：今から５年前，もう学校の中で教育は終わらないということを文科省や国は宣言したことになっていまして，そのために，じゃあどうしたらいいのかと。どんな社会に子どもたちが生きるのかがわからないから，自分で生き抜いていく力をつけるために学び続ける力の基礎をつけましょうということになっていて。また，探究的な学習を進められるように先生方も教え方を変えましょう，先生方は多忙で大変なことになっているので本来の仕事ができるよう

にもっと身軽にしましょうと。それから，学ぶ力のベースとなるのは，言語活動や体験活動なので，様々な社会体験を子どものうちから積んで，お互いに競争し合うんじゃなくて一緒にやっていける力をつけましょう，ということなんですね。その意味では，地域社会が子どもたちを引受けて子どもを地域が一緒に育てていくというか，そういう関係を作ってくださいと。ですから，一つは地域が様々なものを引き受けていくということも含めて，子どもたちに様々な，豊かな社会体験ができるような地域社会に変わっていただきたいということなんです。

実は，国の方の議論では，ここに家庭が入ってこないんですね。なぜかというと，家庭が多様化し過ぎてしまっていて，ひとり親家庭から外国籍の家庭から，働き方もそれぞれ千差万別になっていますから，家庭にいろんなことを負わせることは不可能だろうという判断が働いていて，むしろ地域社会ということになっています。

制度としてはほぼ形があるので，あとはそこにどう魂を入れるかというのが各学校ごとの取組になっていくので，その意味で，根本委員がおっしゃったみたいに，地域でどう担うかという議論をしていただきたいというのが元々の趣旨になります。

事　務　局: 資料にもあるとおり，地域学校協働，学校運営協議会等，地域というのは今回改定していく中での大きなテーマの一つとして挙げており，5ページの一番右下，学校・地域・家庭の連携ということで，学校運営協議会の全小・中学校設置を令和5年度までに完了し，コミュニティ・スクールとしてスタートする計画で進めております。

根本委員：そうすると，地域と学校の協力という動きがどんどん進んでくると思います。やはり協働するという観点からも，教育行政と一般行政が連携を強化していかなくてはいけないんじゃないかなと。やっぱり地域の視点を取り入れながら，いろいろと取り組んでいく姿勢とスタンスというのが必要ではないでしょうか。

事　務　局：本計画の達成に向けて，教育委員会と市長部局，お互いに連携を取って進めていきたいと考えております。

（2）協議

「第４次柏市生涯学習推進計画案の内容について」の意見交換を行った。

内容は，次のとおり。

池沢会長：それでは，本日の協議に入りたいと思います。今回は，第４次生涯学習推進計画，パブリックコメント原案の内容について，委員の皆様から御意見をいただければと思います。

牧野委員，お願いします。

牧野委員：一般行政と教育行政が分かれている状態は，新しい社会に向けて動こうとする時に，ある意味で問題になってきているというか，阻害要因というか，邪魔になってきているというような動きがあるんですね。計画でも触れられているとおり，人生１００年時代がやってくると言われています。また，Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０やインダストリー４．０と言われているのですが，人工知能の発達によって，今ある仕事の半分が自動化されたり，全部システムが決めてくれたりする社会がやってくる可能性が高いわけです。その時に，生涯学習で学び続けるといったことが大事になるのではないか。

例えば，小中高校で１２年間，大学へ行っても１６年間しかない，人生の本当の前半で教育が終わってしまうんじゃなくて，やっぱり学び続けて新しい社会に対応しながら，自分で新しいものを作っていかないと辛くないですかという話が一面あるんですね。それが，その生涯学習といったものが教育行政からちょっと出た方がいいですよと言われる一つの理由になっています。

それからもう一つが，総人口の１３％ぐらい，８人に１人ぐらいは認知症になるというふうに言われていて，もう

施設が足りないことは明らかです。そうなると，地域で共生社会を作っていかなきゃいけないので，厚労省は社会教育や生涯学習と言い始めています。今までみたいな地域包括ケアではなくて，地域共生社会づくりを学びを通して作ると言われていて，そうすると，福祉は教育を利用して地域づくりをしないと，もう間に合わないということですね。その時に，教育委員会と一般行政が分かれていると使いにくいので，それで厚労省ももう生涯学習を一般行政の方に出してくれと言っているんです。文科省はあんまりそこに対してうまく反応ができないので，地元で困っているという状況があるんですよね。

さらに，地域防災もそうなんです。激震災害が増えていて，地域防災をコミュニティで何とかしなきゃいけなくなってきているので，国交省ですら，既に学びと地域づくりと言い始めているんですね。それから総務省も，学びとまちづくりと言い始めていますし，経産省ですら，未来の教室という子どもたちを使った地域経済の活性化という方針を立て始めていて，全てが実は学区単位の小さなコミュニティがターゲットになっていきながら，一般行政がそこにおりてきて，社会教育や生涯学習を使って地域づくりをしていきましょう，という動きがとても強くなっているんです。

加えて，高齢社会ですから，高齢社会対策基本法も明確に生涯学習と書き込んでいるわけですね。それを受けて作られた「人生１００年時代構想会議」も学び直しと大学の改革と地域づくりと書いてありますし，その翌年にできた「高齢社会対策大綱」にも生涯学習と書き込まれていますし，政府が持っている「選択する未来」という会議体でも，地域コミュニティと生涯学習が鍵だと書かれているんですね。その意味では，もう教育委員会マターではなくなりつつあるという面があるんです。

それに対して，教育委員会，また社会教育はどうするのかということなんですけれども，各領域で縦割りでおりて

くるものに対する基盤を作っておかなければならないんだろうと思うんですね。縦割りでおりてきて，各領域がそれを利用するということだけではなくて，むしろ住民が自分たちで動いていけますよ，やれますよというようなプラットホームを作っておいて，そこで，それぞれの領域からおりてくる様々な恩恵を受けていく。住民がそれを受けて自分たちでやっていくという力をつけておかないと，多分，もう行政に全部サービスを提供させるという議論で終わってしまうと思うんです。そういうことじゃなくて，住民が自分たちでやっていくことによって，例えば柏市の財政状況を良くしていきながら，自分たちがやっていく楽しさを覚えていって，そういうことの関係をつける中で，孤立する人が少なくなっていくということで，簡単に言えば，地域問題が起こらなくなる「まち」なのだという作り方を求めていかないと，ちょっと厳しいんじゃないかなと思うんですね。

その意味では,やっぱり社会教育や生涯学習という形で，住民が自分たちで学びながら，自分たちでやっていくんだというような仕組みをどこかで作っておかなきゃいけなくて，そうした上で，先ほど根本委員がおっしゃったように，じゃあ福祉どうするのかとか，じゃあまちづくりどうするのかとか，じゃあ防災どうするのかといったことが乗っかるような仕組みが必要ではないかなと思うんですね。それができるのは実は教育委員会じゃないかなと思うんです。なぜかというと，子ども，学校と関わりがあるので，子どもに関われるわけですよね。子どもと大人が一緒になって地域社会を作っていきながら，そこにいろんなものがおりてきて，住民がそれを引受けていくという環境を作ることが大事ではないかなと思うんですね。そのようなことで，こういう生涯学習の振興計画が作られていくと，とてもすばらしいなと思っているんです。

実は，こういう作り方って柏市だけではなくて，他の所も今はそういう所が多いんですけども，実は最近作り始め

た所は，やっぱりそういう議論を始めていて，都内の２３区の中のいくつかの区も，そういう総合行政としての社会教育，生涯学習，例えば，教育委員会も関わっていますよという作り方をして，そこにちゃんと学校も関わっていることこそ，実はコミュニティ・スクールなのだという議論を始めようとしているので，そういう形と何かもうちょっと結びつけられていくと，良いものになるかなというふうに思っているということです。

池沢会長：厚生労働省のことや福祉のことが出ましたが，高橋委員はどのように考えていらっしゃいますか。

高橋委員：福祉，特に地域福祉に関しては，やはり生涯学習なくしては，多分もたないだろうという所はあります。なぜかといいますと，福祉関係の長い歴史の中で，本当に奉仕の精神でボランティアをやってくださっていた方というのが，ある意味で下支えしてきた時代があったんですが，そこから次の展開に関して，やっぱり福祉だけの道ですと，どうしても支え切れないという状況になっています。

　そうなった時に福祉問題に関して，福祉の切り口だけで協力をお願いしてもなかなか広がりが持てないですし，そういう意味では，その楽しさとかやりがいとか，まさに生涯学習の得意とする領域の中から社会課題に気付いていただいて，福祉の領域にも関わっていただく，もしくは気付いた時に社会貢献になってるみたいな仕組みがあったらいいのかなと思って，そういったのが見出せるとか気付く場というのが，コミュニティ・スクールになってもいいのかなという期待があります。

池沢会長：先ほどの牧野委員のお話の中に，言葉というのが出てきていましたね。言葉というのはやはり本人が自分を語っていったり，自己肯定感を持ったりするために大事な問題かなと思うんですね。それを育てるのはどこなのかな，育てていくにはどうしたらいいのだろうかなと思いまして。家庭はいろんな形になってきたのでなかなか家庭教育を入れるのは難しいというお話もありましたが。教育振興計画

においても，家庭教育というような言葉でページ数をあまり取ってなかったですが，その辺はいかがお考えでしょうか。やはり，家庭の問題には触れずにはおけないと思いますし，１８年の基本法の時にも入っていましたし，それから貧困の問題とか，格差の問題とか，虐待の問題とか，いろいろ出てきますね。言葉も最初って意外と家庭かなと思ったりもするんですね。やっぱりそういうことも全部含めて，本当は家庭教育もかなりページ数を取っていただきたいなという気もするのですが，その辺はいかがですか。

事　務　局：子どもたちを取り巻く環境としては，学校があって，それ以外で地域があって，もう一つはやっぱり家庭という，その三つは子どもを取り巻く要素としては外せないと。さっき，牧野委員がおっしゃったように，まさに家庭は多様化して千差万別になっているのですが，子どもがいるフィールドの三大要素の一つはやっぱり家庭であるし，地域であり，学校であることは恐らく当面変わらないだろうとは思っています。その中で，地域の力というのが，今回はたまたまコロナの関係があったりして，学校が長らくクローズになったりしたことで，その辺の問題がよりくっきりしてきたと感じております。

先ほど，教育振興計画の資料の５ページでも御説明しましたけれども，生涯学習部でも地域づくりの取組に力を入れていきたいということで，例えば，子どもの居場所づくりの取組の一つとして，放課後子ども教室などを強化していきたいですし，コミュニティ・スクールも確かにいろんな要素があって，教職員の負担軽減もあったりとかという良さはあるのですが，何も地域全体で画一的なやり方でコミュニティ・スクールを作らなければいけないということではなくて，むしろ地域はその地域の問題を自発的に取り上げて，そのコミュニティ・スクールの取組の中で紹介していけるような，地域地域での形を整えていくことの方がやっぱり大事で，その議論を地域の中でしっかりできるかどうかという所が重要なのかなと。ただ，体制だけを作り

ましたということだけでは，多分，コミュニティ・スクールは長続きしないと思うので，そういった所は教育委員会としてもしっかり学校と連携してやっていきたいと考えております。

池沢会長：それでは，この第４次生涯計画にスポットを当てていきたいと思います。三好委員お願いします。

三好委員：この計画の中で，「すべての人が学べる環境に包まれるように」というような，骨子ではあまり深く書いていなかった部分が，１８ページの所に割と具体的に書かれているという印象があって，これを読んだ時に，とても良いなと思いました。是非，テーマに沿った具体的な計画について，少しずつ進んでいくことを願っています。

　それから，コラムと書かれている部分については，もしかしたら，ピックアップや補足といった内容に近いんじゃないのかなという印象があったので，もう一度お考えいただけないかなというのが感想でございます。

池沢会長：どなたか同じ考えを持たれた方がいらしたらおっしゃってください。上野委員，お願いします。

上野委員：私もやっぱりコラムの所にちょっと違和感があって，何か文章で読んでいて楽しくて，かつ，為になるものが欲しいなと思ったので，是非御検討いただければと思います。

池沢会長：並木委員，お願いします。

並木委員：私が意味していたコラムというのは，要するにエピソードなんですよ。こういうことがあって子どもの声があったり，これを主催した人の声があって，こんな楽しいんだということが見て分かるということのイメージだったんですね。そういうエピソードが入っていると，私はさらに良くなるんじゃないかと思いました。

池沢会長：では，ここは編集する時，もう一度考えるということで。常野委員，お願いします。

常野委員：この内容を見まして，また日々の活動をしておりまして，学校の方から，地域への要望をもっともっと出すべきだと思うんです。我々は今，いろんなものをピックアップしな

がら学校の校長，教頭の所に行き，こういうことをしたいんだという話をしているんですけれども，学校ではもっと困っていることがたくさんあるだろうと思います。ですから，コミュニティ・スクールというのは，そういう活動の中で解消できてくる，また達成できてくるという考え方を持っておりますので，担当区域の学校から地域のふる協に，こんなことで困っているんだというような具体的な話をして，もっと使うべきだと。もっと使って活動していって，最終的に地域の子どもたちがハッピーになり，地域が良くなるというような形の動きというものも，この中に入れていただきたい。もっと大胆に，誰々来てくれと，これで困っているんだという話を具体的にできるようなシステムを作っていただければ，大分変わってくるんじゃないかなと思います。

池沢会長：並木委員，いかがでしょうか。

並木委員：常野委員に，うちの近くに住んでほしいなと思いました。うちも光ケ丘の方の皆さん，本当に協力的でよくやってくださいます。不登校の子がいます。なかなか学校に来ません。学校も迎えには毎日は行きません。そういう時に地域の民生委員の方，それから，主任児童員の方が心配してくださって，その子のお家の近くを見てくださったりとかしているんですね。そうすると，「お母さんこういうふうにしてましたよ」「子どもたちは元気そうでしたよ」というような情報をくれるんです。とってもありがたいことで，すごくそこで地域の力を感じました。

本当に学校は核となって，地域の方に支えられながら頑張っていかなきゃいけないと思っています。ですので，もちろん学校で困っていることはたくさんあります。ただ，なかなか頼めるものと，厳しいなというものは，コロナ禍のこともあるんですけど，個人情報のこともあって，本当にそこは悩ましい所なんですね。ただ，やっぱり，今言ったように，具体的にこれをしてほしいというのは，私も発信していくべきだなとは思っていますので，すごくそのこ

とを感じています。

根本委員：常野委員のおっしゃったとおりだと思います。ただ，私は柏市方々を訪問しているのですが，学校が何を地域に求めるか，地域がどういうことをできるかというのには，地域差があるんですね。それで良しとする地域でも，違う地域に行ったら非常にネガティブというような感じもする時もありまして，まずそれには各地域ごとで顔の見えるお付き合いをしないと人間関係というのは構築できない。それにはコミュニティ・スクールが一番よろしいんじゃないかなと思います。コミュニティ・スクールが柏市全体に普及すれば，今度は学校が何を求めるか非常に見やすくなると思います。

ただ地域としても，学校が何を求めているかというのが非常に分からない。というのも，地域の人にとって学校は今まで非常に敷居が高かったんですね。それを友好的にお付き合いするというのは，何かのステップを踏まないとできないんじゃないか，それにはコミュニティ・スクールが良いと思うんですね。できるだけ早くコミュニティ・スクール組織というものを普及していただいて，それで学校と地域の見える関係，お互いに人間関係というのを構築していただければなと思っております。

池沢会長：それでは次に，柗冨委員お願いします。

柗冨委員：現在コーディネーターをしているのですが，やはり学校間での温度差は感じます。先ほど牧野委員の方からもあったとおり，今，家庭はすごく大変だと思うのですが，その何もかもを学校がしてくれるものだと親の方が思っている面もあると思います。私も母として，家庭があっての子どもたちと思いますので，それについては地域との関連というのが一番じゃないかなと思って活動しています。先ほどから言われているように，もっと学校の方から言って欲しいとは思いますが，ずけずけ学校の方に言いながら入るわけにもいかないというのが，率直な意見です。

池沢会長：第４次計画と絡めて，その辺はいかがでしょうか。

事　務　局：教育は学校教育だけでなく，社会教育と学校教育の大きな両輪だと思っております。先ほど説明した振興計画は今，ほぼ学校教育マターになっているので，やはりこの中に生涯学習推進計画の要素をしっかりと位置付けていきたいというのが，教育委員会全体の考え方にもなっています。それからコミュニティ・スクールも，教育委員会の中で連携する形がしっかりとできていますので，大きな意味での教育の視点の中で，議論になっているような取組をもれなく進められるようにしていきたいと思っています。

池沢会長：岩﨑委員，お願いします。

岩﨑委員：家庭教育について，実は県の教育振興基本計画を作る中で，有識者会議で各専門家の方からいろいろ御意見頂いてきた中で，やはり教育の原点は家庭にあるというお言葉を頂きました。やはり「子どもが生まれて一番最初に教育をされるのは家庭から」という御意見が非常に多くありました。その中で，以前は３世代，４世代ということで，おじいちゃん，おばあちゃんたちとも一緒に過ごしていく中で，お母さん，お父さんが子どもを育てていく中で，いろいろ御家族からアドバイスを頂けている部分がありましたけれども，現在は核家族になりまして，お母さん方，お父さん方が孤立しているような状況が見られると。そういう中で，やはり，家庭教育を支援していく部分が必要ではないのかという御意見が出てきました。そういう意味では，生涯学習の中の原点が家庭教育だという御意見もありましたので，やはりその家庭教育というのは重要なことなのかなということで私も感じております。

それから，私が勤務している県民プラザは，まさしく生涯学習を進めていく施設なのですが，計画の取組方針にある「はじめるきっかけ」や「情報提供による学び」の支援という，まさしく県民の皆様に提供していかなければならない内容が書かれておりますので，私もこれを参考にさせていただきたいと思いますし，この取組は非常にすばらしいことなのかなと感じました。

池沢会長：末武委員，お願いします。

末武委員：計画１８ページに「学ぶ人一人一人が求める情報を得られる状態を目指して，障害の有無や言語，時間や経済的制約等に関わらず，市民一人一人がいつでも，どこでも，誰でも学ぶことができる環境作りを支援します」とあるのですが，障害の有無に関わらず，安心して必要な時に求める情報が得られるという状況は，一歩踏み出したりするのに，とても良い状況だと思います。

２１ページにあるような,自分のきっかけから始まって，もっと知りたい・つながりたい，ひろく伝えたいという伝える側になるという理想的な循環が生まれると，生涯学習を始める時にも，その方の支援，力によって支えられる方がまた一歩踏み出せるということで，そういう循環がうまく生まれるととても良いなと思いました。

池沢会長：今，全ての人がというような御意見が出ました。フレイル，ノーマライゼーション，バリアフリーという言葉がありますが，ちょっとその辺の言葉がどこまでを言うのかと思いますね。今後市民のご意見をお聞きするということになっていますが，いかがでしょうか。

高橋委員：新しい言葉がどんどん出てきて分かりづらいということも，市民のお声からは頂いているという所ではあります。ただ，それによって関心を持っていただいて，正しい知識をお伝えするという部分でも，我々には大変大事な役割があると思っています。バリアフリーに関して，一定の定着度はもうあると思っていまして，今回計画に入っている新しい言葉としては，フレイルだと思います。特に，柏はフレイル予防に関してはかなり推進をしていて，東大さんに大きなお力を頂いている所なんですけれども，これに関しても，その生涯学習と連動して大変大事なキーワードになっていると感じています。

牧野委員の話にあったシステムに依存する世界というのが，便利でもあり恐ろしくも感じてしまったんですけれども，そんな中で学び続けられる環境をどう作っていくのが

一番いいのかなと。ある意味でつまらない社会になってしまう可能性があるので，楽しむために生涯学習を求める人が増えていく良いチャンスでもあると考えた方がいいのか，その辺りを少しお願いします。

牧野委員：依存させるというのは，簡単に言えば生理的水準まで要求を落とすということなので，そんなことで市場は大きくなるんですかということでもあるわけですよね。本来，私たちが物を買いたいと思うのは，ごはんを食べるだけじゃなくて，食べて楽しむためにもっと何か買いたいとか，子どもと一緒になってやりたいからこれが欲しいとか，そういうふうになってくるわけですよね。そこの所を全部依存させてしまって，物を考えさせなくなっていいのかとなると思うんですよ。

フレイルもそうで，フレイルにならないという健康状態が保たれるというのは，マイナスになるのをゼロに戻すだけの話なので，そこから先に行くのは，やっぱり創造性であったりとか，一緒にやっていくという形で，何か新しい物を作ったり，楽しくなったりということが，ある意味は，正の循環に入るというか，あれやりたい，これやりたい，もっとこうしようねという環境ができてくるというのが，新しい市場を作ることにもなるし，自分が生活の主人公になっていくという思いも持てるようになってくることだと思うんですよね。そういう関係をどうするかというのを，やっぱり生涯学習で考えなきゃいけなくなってくるかなと思いますね。

その時に，やっぱり私たちが考えなきゃいけないのは，先ほど家庭教育のことで，国が今，あまり家庭に負担はという話をしているのはなぜかと。今の若いお母さん方というのは，観点別評価が入ってきている世代で，学校の成績だけじゃなく，関心や意欲や体力や，個人のその人格に関わる所を認めて本当は多様化しましょうとやってきたはずだったのが，気が付いたらそれが序列化につながっているという関係になってしまっていて，常に自分は評価され

続けているみたいな感覚になっている方が多いと思うんですね。今の子どもたちもそうで，本来であれば多様化していかなきゃいけなかった所が，例えばテストの点数が悪いだけでは終わらなくなってしまっていて，テストの点数が悪いのはやる気がないからだと，やる気がないのは人格的に劣っているからだみたいになってしまっていて，そうなると結局，学校の勉強ができないことは人間として劣っているんだみたいな感覚を持ってしまっているのではないかという議論になっているんです。

その意味では，評価をしないでどうするのかという議論をしなきゃいけなくなっていて，そうすると，やっぱり認め合う関係から作っていく。ですから，家庭に何かやってもらう前に，お母さん方を支える関係とか，お母さん方を孤立させないような関係を作らなきゃいけないんじゃないかという議論になっていて，それで，地域社会でお母さん方を孤立させない，また，家庭を孤立させないようにしていく。だけど，また難しいのは，地域が関わると，また私のことをある意味では劣った人間だと思っているんでしょということを思ってしまうようになっているわけですよね。そこを，そうじゃない関係に組み替えるにはどうしたらいいかと。それには，やっぱり自分が楽しくなって次へ次へ行こうとするような良い循環ができる，そうしたものを作っていく中で，自分は大丈夫なんだと思えるような関係を作っていかないと，ちょっと厳しいのかなと思うんですよね。

第３次計画の評価も，ＰＤＣＡ（Ｐｌａｎ→Ｄｏ→Ｃｈｅｃｋ→Ａｃｔｉｏｎ）で，数字が達成できたかできないかで評価がついていますけど，これだと次やる時には，達成できるプランを考えようとするので，小さくなってしまうんですね。そうではなくて，今はＡＡＲ（Ａｎｔｉｃｉｐａｔｉｏｎ→Ａｃｔｉｏｎ→Ｒｅｆｌｅｃｔｉｏｎ）という，ちょっと良いことを考えて，やってみて，振り返る，評価はしないで，うまくいったかな，いかなかったなら今

度はこれをやってみようという形の正の循環に回していきましょうという議論をやっているんです。

子どもとの関係も，大人と認め合いましょう，言葉を使って認め合いましょうと，大人はやりがちなんですけど，「そうだよね，そうだよね，そうだよね」と言っておきながら，「でもね」と言っちゃうんですよ。そうすると，もう評価を受けたことになってしまうので，彼らは「ああ，やっぱりな」と思うんです。でもＡＡＲだと，「そうだよね，そうだよね，だったらこうしない？」と言って，向こうが「いや，だったら僕はこうしたいです」と言ってくる関係であれば，認め合う関係に入ってくるので，そういうものは循環にしませんかという話でもあるんですね。

池沢会長：いろいろと難しい言葉が出てくるのですが，もし計画の内容と結びつけるならば，やっぱりパブリックの意見をお聞きする時に，少し注を加えておいていただくとなお分かりやすいかなと思うのですが，いかがでしょうか。

事　務　局：分かりやすいように注釈を加えていきたいと思います。

池沢会長：清水委員，いかがでしょう。

清水委員：要望なのですが，目指す生涯学習像について，計画のはじめで市長からも「笑顔と元気が輪となり広がるまち柏」を目指す，とあるので，目指すなりの予算を投下していただきたい。

事　務　局：頑張ります。

池沢会長：評価という所も難しい問題ですね。今までは計画から始まって評価まで来ましたけど，先ほど牧野委員からあったように，ＡＡＲのような方向で行くべきじゃないかな，そういう子どもを育てるように，そういう土壌，地域社会を作っていく必要があるかなと思いました。

以上